

大学準硬式野球のご紹介

全日本大学準硬式野球連盟
理事長 倉知輝雄

現在全国の大学で「準硬式野球」を楽しむ学生が急激に増えています。
全日本大学準硬式野球連盟に登録されている選手数(マネージャーを含む)を見てみると、H12年末の7,000名からH20年末の9,068名と毎年増加し、現在増加率30%に達しています。しかしまだまだ学生諸君の中には「準硬式野球って何なの?」と知らない方が大勢いらっしゃいますので、大学に於けるこの野球の意義や楽しみ方をご説明します。

[1] 準硬式野球とは

(1) ボール

準硬式野球で使用するボールは、規格の直径、重量、反発力に合わせコルクの粉末と樹脂を適度に混ぜ合わせた芯に糸を巻き付け(接着しやすくして)表面を天然ゴムで覆ったもので作られていますので、丁度硬式ボール(準硬式ボールとほぼ同じ芯を牛皮で覆ったもの)と軟式ボール(芯はなく中空で表面のゴムの模様が準硬式ボールと同じもの)の中間的存在です。打球音は「カーン」という硬式ボールと同じで、バットスウィングのスピードと力に比例して打球が強くなるので、硬式野球と同じ楽しみ方を味わえます。

但し、表面がゴムで若干柔らかいので安全性が高いのですが、硬式ボールに比べ、摩擦抵抗が大きいため内野ゴロと外野フライが若干失速しやすい傾向にあります。

ちなみに準硬式ボール(軟式H号ボール)の規格は下記の通りです。

直径：71.5-72.5cm 重量：141.2-144.8g 反発力：50.0-70.0cm

(反発力は150cmの高さから大理石板に落とし、跳ね返り高さを測定したもの)

(2) バット

使用するバットは硬式用で、木製(大学硬式で使用)でも金属製(高校硬式で使用)でもよいのですが、殆どの選手は打球が強くと利な金属製(規格：900gr以上)を使っています。

(3) その他の用具

グローブ、ミット、両耳ヘルメット、捕手の使用するマスク、プロテクター等その他全ての用具は硬式用のものを使用します。

(4) 施設(野球場)

球場は全て硬式用のものを使い、軟式用のものは利用できません。

(5) ルール

適用する野球規則は基本的には毎年発行される「公認野球規則」です。

しかし付則については大学準硬式連盟が(財)全日本軟式野球連盟(全軟連)の傘下であることから、一部軟式のを準用しますが、殆どは硬式と同じです。

〔Ⅱ〕 大学準硬式野球の歴史

昨年創立60周年を迎えた大学準硬式野球連盟の歴史は次の3つの時代に分けることができます。

(1) (旧)「全日本大学軟式野球連盟」時代 (1949年--1991年)

連盟が発足した当時(1949年)は現在の軟式ボールがリーグ戦でも使われていたので、その年の12月に行われた第1回選手権大会(明石市--同志社大が優勝)は軟式ボールで行われました。

一方現在使われている準硬式ボール(軟式H号ボール)の前身である「トップボール」(開発した内外ゴムの商品名)が大学で正式に使われ出したのはその翌年(1950年)からで、従って第2回大会(飯田市--慶應義塾大学が優勝)から準硬式ボールで選手権が争われることとなりました。

その後の42年間、大学では軟式野球の公式戦に全て準硬式ボールが使われる事となったので、当時は大学軟式野球=準硬式野球でした。

この間、高校、社会人の間でも一部準硬式野球が普及し、1960年代前半までは国体の競技種目となっていました。施設、用具等が全て硬式と同じという制約から手軽さの点で問題があり徐々にチーム数が減少していきました。現在では東京地区の社会人野球の一部と大阪地区の中学野球の一部でリーグ戦やトーナメント戦が行われています。

一方、大学に於いてはこれとは反対に準硬式野球が益々発展・普及して行きました。

その理由は後述する「当連盟運営の基本方針」にあるように、

- ・徹底したアマチュアリズムの追求
- ・学業とスポーツの両立
- ・準硬式野球を愛する全ての選手間の友好促進

の精神が、練習量の多い「野球漬け」はいやだが、本格的な野球を楽しみながら社会人としても成長したいという多くの大学生諸君に支持されてきたからです。

(2) 「全日本大学軟式野球連盟：準硬式の部」時代 (1992年--1999年)

一方、この時代に入る10年位前から大学に於いて軟式ボールによるチームが各地に生まれ、「全日本学生軟式野球連盟」が結成されていましたが、1992年に全軟連の指導で、準硬式ボールを使用する(旧)「全日本大学軟式野球連盟」と軟式ボールを使用する「全日本学生軟式野球連盟」が合体して「全日本大学軟式野球連盟：準硬式の部」と「--：軟式の部」になりました。

この間、「準硬式の部」は全国のチームが一致団結して全日本連盟を育ててきましたが、「軟式の部」の方は内部の意思統一が出来ず、紆余曲折がありましたが、結局現在に至るまで約30%のチームが再度「全日本学生軟式野球連盟」を組織し、全軟連の元を離れ独自に活動しています。

(3) 「全日本大学準硬式野球連盟」時代 (2000年--現在)

2000年からは「準硬式の部」と「軟式の部」がそれぞれ独自に連盟を結成し、「全日本大学準硬式野球連盟」と(新)「全日本大学軟式野球連盟」が誕生しました。そして両連盟の緩やかな結合を目指す上部団体「全日本大学軟式野球協会」が全軟連の直接の傘下団体となりました。

この時代の10年間は当連盟にとってはまさに改革の時代で、古き良きものはそのまま残し、時代にそぐわないものは徹底的に合理化・改革してきました。その結果、多くの学生諸君からの賛同を得て、この8年間で登録選手数を7000名から9068名と30%増加させることができました。この改革の具体的内容は当連盟機関誌「OUT&SAFE」60周年記念号(2008年)に記載されています。

又、上記3世代を通じて連盟内部の細かい動きは、このサイトからもリンクしている「Wikipedia--全日本軟式野球連盟」に詳しく述べられています。

[Ⅲ] 大学準硬式野球連盟の運営

(1) 基本方針

大学準硬式野球の目指すものはあくまでも

「アマチュアスポーツの精神に則り学業との両立を目指す」ことです。

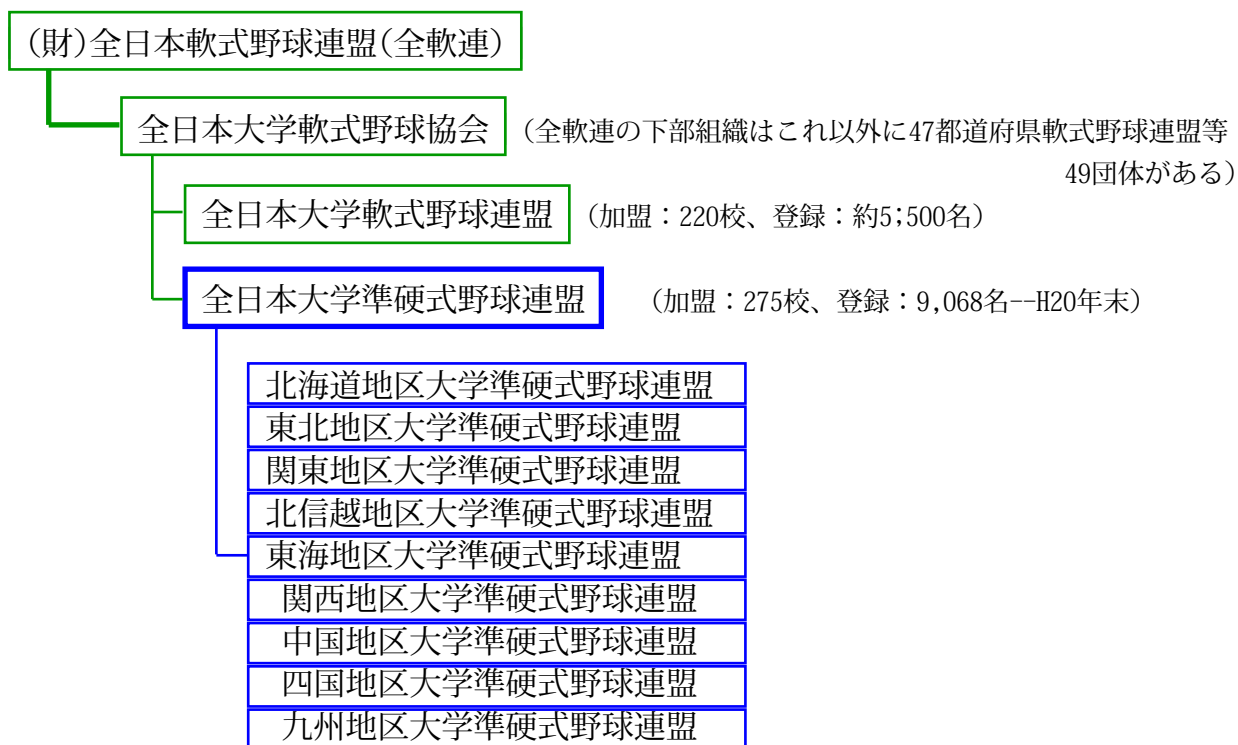
アマチュアスポーツの精神とは「営利にとらわれず、純粹にスポーツを楽しむこと」です。従って世に言う「野球漬け」は避け、各地区のリーグ戦や全国大会に於いても学業の妨げにならぬよう極力配慮して運営されています。この結果、各大学に於いても準硬式野球部員は、健康で健全な精神をもった学力の充実した人材として、卒業後も広く社会に受け入れられ多方面で活躍しています。

一方、選手の技量についてはかなりの幅があり、現在広島カープの青木投手(同志社大OB)や西武ライオンズの山本投手(関西学院大OB)のように選手権大会優勝投手となってプロを目指すレベルから草野球レベルまで広範にわたっています。本連盟はこれら野球を愛する全ての選手諸君に対応できるよう、毎年チャンピオンシップを競う「全日本大学準硬式野球選手権大会」の開催以外に、アマチュア精神とマナーの向上を目指す「清瀬杯全日本大学選抜準硬式野球大会」や技能の向上と選手間の親睦を目指すため各地区のオールスターチームによる「全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会」を開催しています。これらの大会の開催により、当連盟は同時代を共有した各大学の選手諸君が社会に出てからも更に友好を深め、お互い助け合って挫折することなく人生を豊かなものにして貰いたいと願っています。

又、当連盟は学生諸君の経済的負担を極力軽減するため、徹底的な合理化のもと、費用のかからない連盟運営に心がけています。

(2) 組織

当連盟の組織は下図のようになっています。



[注] ①各地区大学準硬式野球連盟の傘下には、多くの連盟で春季及び秋季リーグ戦等を主催する下部連盟(東京6大学連盟、東都大学連盟、関西6大学連盟等--)が所属しています。

②各地区連盟は全日本連盟の「支部」という形をとらず、その運営については地域の実情に合わせたかなり大巾な自主性が認められています。

③H20年末現在の各地区の加盟校数と登録選手数(マネジャーを含む)は下記の通りです。

北海道：加盟20校	登録612名	東 北：加盟15校	登録493名
関 東：加盟74校	登録2,725名	北信越：加盟22校	登録506名
東 海：加盟30校	登録952名	関 西：加盟56校	登録2,053名
中 国：加盟15校	登録384名	四 国：加盟9校	登録244名
九 州：加盟35校	登録1,099名	[合 計：加盟275校	登録9068名]

④大学で準硬式野球を楽しみたい選手・マネジャー諸君で自分の大学に準硬式野球部がない場合は、先ずチームを作り大学の公認(体育会でも同好会でもよい)を得て、顧問(大学関係者)を決めてから所属地区連盟に申し込んで下さい。

各地区の活動状況は、このホームページにリンクされていますので、名簿、連盟規約、主要大会及び春季・秋季リーグ戦の日程、記録等の記事をご参照下さい。

(3) 役員名簿・連盟規約

以下のURLをご参照ください。

http://junkoh.jp/jba_archives/0032/

(4) 活動状況

①評議員会・定例理事会等の開催

毎年4月に当連盟の最高議決機関である「評議員会」を、また定例理事会を年3回(4月、8月、1月)開催し、全国の代表者からの意見集約を民主的に行って連盟を運営しています。

②全国大会の開催

上記の「基本方針」の項で述べました下記の3大会を開催しています。

・全日本大学準硬式野球選手権大会

(全国9地区からの代表25チームによるトーナメント戦でチャンピオンシップを目指す。優勝チームに文部科学大臣杯が授与される--8月後半開催)

・清瀬杯全日本大学選抜準硬式野球大会

(上記25チームを除き、全国9地区からの技量、マナー共に優秀な代表16チームによるトーナメント戦。優勝チームに文部科学大臣賞が授与される--8月下旬開催)

・全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会

(全国9地区のオールスターチームを3グループに分け、巴戦による予選リーグを行い、更にその優勝チームによる巴戦で決勝リーグを行う。--11月開催)

これらの大会の実施要項、過去の記録等の詳細は、このホームページにリンクされていますのでご参照下さい。

③各種委員会の活動

全日本連盟では下記の委員会が活動を行っています。委員会は通常上記理事会開催時期に合わせて、その前後に開いています。

・国際交流委員会--3年に1度、オールジャパンチームの海外遠征を行っています。

又、海外チームの受入れ体制の整備に務めています。

・編集委員会--毎年全国の全公式試合記録をまとめた機関誌「OUT&SAFE」を発行しています。

・技術委員会--競技の向上に資する全ての事柄(審判、記録等-)に加え、現在マナー向上キャンペーンに取り組んでいます。

・広報委員会--準硬式野球に関心を持つ全ての方を対象に広報活動を広範且つ組織的に行います。

その他総務委員会、財務委員会、競技(強化)委員会の設立も検討中です。

以上